

平成20年度関東高等学校男子バスケットボール大会 兼 第62回関東高等学校男子バスケットボール選手権大会

平成20年 5月31日(土)	ひたちなか市総合運動公園体育館	大会1日目	Bコート	第3試合 12:00~	
<チームA> 県立秦野 神奈川 3位		94 { 28 1Q 25 } { 17 2Q 21 } { 22 3Q 32 } { 27 4Q 25 }		<チームB> 県立取手松陽 茨城 1位	

【Aブロック】

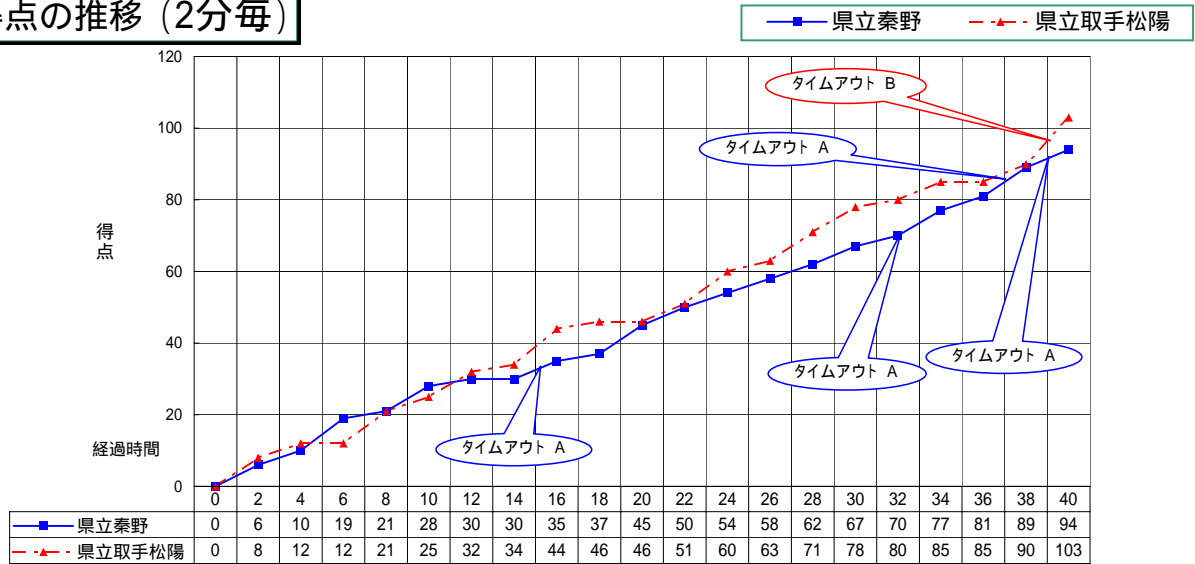
主審：吉宇田太一(東京) 副審：園田 裕之(群馬)

S	No	選手名	得点	3P	2P	FT	Foul
	4	竹嶋 拓人	25	4	5	3	3
	5	五十嵐 匠	24	3	7	1	3
	6	相京 祐介	16		8		3
	7	小野 拓哉	21	3	4	4	5
	8	藤枝 一馬					
	9	村上 仁志					
	10	渡邊 涼					3
	11	柳澤 康平					
	12	波田野 景平					
	13	横山 勇氣	8	2	1		4
	14	安部 倭					
	15	仁科 陸					
	16	阿津坂 滉宣					
	17	及川 寛					
	18	井上 智喜					
コーチ		山本 博之					
合計			94	12	25	8	

S	No	選手名	得点	3P	2P	FT	Foul
	4	飛田 浩明	24	3	4	7	4
	5	来栖 翔太	27	7	3		1
	6	松岡 一成	17		6	5	3
	7	牧山 康太	17	3	3	2	2
	8	畑 昂志	9		4	1	2
	9	馬場 慶司					1
	10	斉藤 竜之介					
	11	斉藤 弘樹					
	12	小川 俊樹	9		4	1	3
	13	小島 慎太郎					
	14	串田 巨至					
	15	豊田 稔朗					
	16	青野 友彦					
	17	土方 正憲					
	18	斉藤 大樹					
コーチ		佐藤 豊文					
合計			103	13	24	16	

：スターター / 出場 / 3P:3点シュート成功本数 / 2P:2点シュート成功本数 / FT:フリースロー成功本数

得点の推移 (2分毎)



戦評

記入者： 安達 准一

激戦区神奈川県第3位秦野と開催地茨城のチャンピオン取手松陽との対戦。サイズ・チームスタイル共に似たチーム同士の激突はお互いハーフコートのマンツーマンでゲームスタート。両チームともディフェンスを頑張り、思い切りよく3Pやミドルを放つ非常にテンポの良いゲームとなった。第1P、まず先手を取ったのは秦野。やを中心に3P、ミドルを高確率で沈めてゆく。対する松陽は対照的にシュートが決まらない苦しい展開。一時7点まで開かれた点差を選手交代でしのぎ、第1P終了間際には、が踏ん張り、同点に追いつくも秦野の3Pがブザービーターで決まり、秦野28 - 25松陽で第1P終了。第2P残り4分、秦野35 - 44松陽となったところで松陽ベンチが動く。2 - 2 - 1オールコートゾーンプレスから2 - 1 - 2ハーフコートゾーンディフェンスを仕掛け、ゲームを決めにかかる。しかし、ディフェンスは効果的でも、フィニッシュがやはり上手いかず、逆に点差を詰められ、秦野45 - 46松陽で前半終了。後半、この激闘は終盤までもつれる。第3P残り4分、秦野58 - 60松陽となったところで秦野ベンチは2 - 1 - 2ハーフコートゾーンディフェンスを指示。しかしこれを松陽が上手く攻め、秦野67 - 78松陽とし、第4Pへ。第4P残り4分、これまで沈黙していた松陽が3Pを決める。このまま流れに乗るものと思われた松陽であったが、シュート成功直後、秦野ベンチがタイムアウトを請求。オールコートマンツーマンにディフェンスを切り替える。これが見事にはまり、残り2分には一気に秦野89 - 90松陽とわずか1点差に。しかし直後、松陽が3Pをバスケットカウントで沈め、4点プレイを演出。激闘によりやく決着が付いた。最終スコア、秦野94 - 103松陽。地元取手松陽が2回戦進出を決めた。